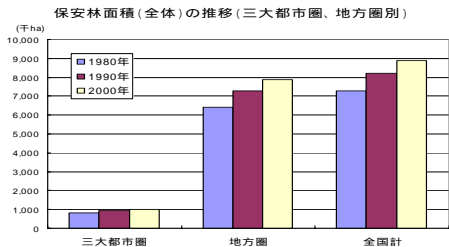


## 指標：森林の保全と利用の状況

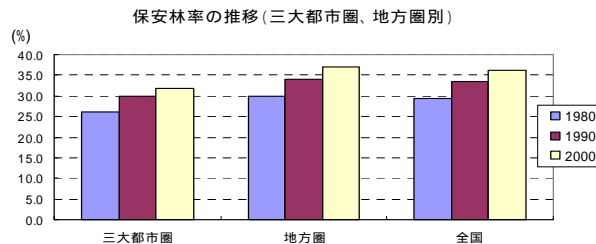
水源のかん養や山地災害の防止等公益的機能の発揮のため、特に伐採の制限や植栽を義務づける必要のある森林を保安林に指定し管理していくことは、森林を保全する上で有効である。

保安林制度は明治時代に始まり、以降制度の充実が進められ、指定面積は水源かん養保安林を中心に毎年増加している。

(保安林は、森林法に基づき、水源のかん養、山地災害の防止、生活環境の保全等を目的に農林水産大臣や都道府県知事により指定される森林である。)

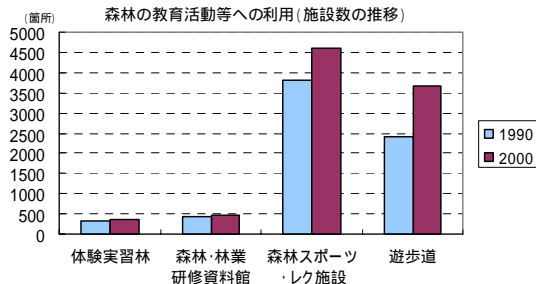


出典：「農林水産省統計年報」をもとに国土交通省国土計画局作成

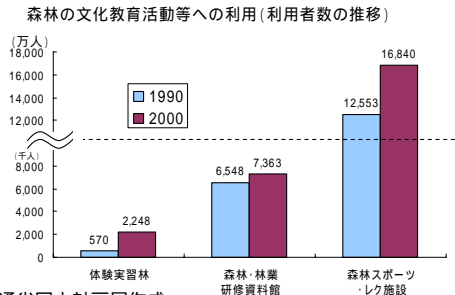


出典：「農林水産省統計年報」「世界農林業センサス」をもとに国土交通省国土計画局作成  
注)保安林率：森林面積に占める保安林面積の割合

近年、森林での様々な体験活動を通じた森林環境教育、森林整備への参加等積極的に森林を利用しながら森林を守り育てていこうとする取り組みが活発化しており、施設数、利用者数ともに増加傾向にある。



出典：「世界農林業センサス」をもとに国土交通省国土計画局作成



注)体験実習林：植林、下草刈り等林業活動等の体験学習を行うことを目的と提供された森林  
森林・林業研修資料館：林業関係の研修施設、森林に関する資料の展示等の施設、都市と山村との交流のための宿泊施設等  
森林スポーツ・レク施設：キャンプ場、スキー場、フィールドアスレチック場、オリエンテーリングコース、乗馬コース等